

23 岡田良一郎と報徳

筆 者 岡本 春一

岡田良一郎は天保 10 年(1839)父佐平治の長男として生まれます。佐平治は報徳精神をみっちり勉学させる為に、良一郎が 16 才の時に直接「二宮尊徳塾」に入門させます。二宮尊徳も「遠州の小僧」と云って身を入れて指導します。安政 3 年(1856)二宮尊徳は亡くなると、2 代目尊行に師事して 6 年間の修行を終えて 21 才で帰郷します。尊行より戴いた謝礼金は全て「倉真報徳社」の土台金として寄付します。尊徳から伝授された報徳仕法で至誠・勤労・分度・推譲の精神で報徳運動を推進して行きます。



いよいよ明治維新を迎えます。明治 5 年(1872)学制頒布がしかれ国民皆学の必要性から「村に不学の戸無く、家に不学の人なからしめん」と掛川宿、日坂宿内に小学校 5 ヶ所を設けます。明治 22 年町村制が布かれが当時はまだ男子 75%、女子 46%しか就学しておらず、日清戦争が始まると男子は軍務の作戦伝達等に支障が出て来たので、義務教育を 4 年間とします。

明治 10 年(1877)岡田良一郎は倉真に「冀北学舎」を開設し、漢学・数学・英語・経済を教えます。生徒は入寮制で午前 4 時起床、掃除・音読・朝食・午前の授業、午後からは別メニュー、生徒は 14 才より 20 才で 40~60 人が在学しており、教師は 10 人英語の担当者もあり、卒業生の中には文部大臣になった岡田良平等もいます。



明治 13 年(1880)県立掛川中学校が開校し最初の校長に岡田良一郎が就任しています。各地にも中学校の設立も進みますと私塾の使命は終わります。従って冀北学舎は閉校します。

明治 6 年(1873)従来の年貢は地租改正に依って納税方法が改正されます。しかし課税基準の不統一から岡田良一郎は遠州民会を立ち上げ全国統一を目指します。

明治 11 年農業技術発展を目途として「掛川農学社」を設立します。親戚関係の高鳥甚三郎を起用して運営し、資本金 5,000 円で田畑 3 町歩を購入し、農作物果樹等を中心に栽培試験を行ない、農学教員を置いて毎月第 1 日曜日には農学社で講演会を行ない、農業技術の発展を図ると共に各地の報徳社員の研修勸農を進めて行きます。明治 15 年には農学社に機械製糸工場をつくり、翌年には農業雑誌「勸農俚謳集」を発刊して研究の成果を発表します。17 年には獣医講習所を開設します。

報徳に於ける経済の近代化と殖産興業の観点から、明治 6 年(1873)「浜松資産貸付所」を設置し、11 年には掛川資産貸付所を立ち上げます。また海外貿易の発展に伴い山崎千三郎が「掛川銀行」を創設するとこれを応援して行きます。明治 25 年(1892)には産業資金並び

に新興の為に掛川信用組合を立ち上げます。

行政面から見ると万延元年(1860)22才で倉真むら里長となり、報徳に依る村起こしを始めます。明治元年(1868)明治維新と共に日坂宿伝馬所取締役につきます。明治4年廃藩置県と共に浜松県に出仕し、6年地租改正令の県下不公平(浜松宿61円、掛川宿70円)と県民の不満から9~12年に掛けて是正して行きます。明治9年には浜松県公選議長に推選され、良一郎の手腕で解決に導きます。明治10年県下は12大区制となり10大区長に岡田良一郎が選ばれます。区内を巡視して勸農奨励を始め善行者の表彰をします。

明治12年(1879)郡制の施行に伴い郡役所を掛川の円満寺に置き、佐野・城東郡長に就任します。この頃から自由民権運動が盛んになり之を応援して行きます。明治22年(1889)大日本帝国憲法が公布され、東洋で初めて立憲国家となります。掛川では東海道鉄道が開通し祝賀行事と共に、今だ見ぬ丘蒸気はどの様なものかと近郷の村民は一目見様と大混雑を呈します。之に依って山崎千三郎は掛川駅周辺の利便性を図って行きます。

明治23年には日本最初の大日本帝国議会が開催され、各地で政談演説会が行われます。掛川では農学社を中心に改進黨、自由党の政談演説会が催されます。岡田良一郎は今迄の実績を基に中立の立場を堅持して、立憲改進黨の丸尾文六を堂々と押さえ衆議院議員にトップ当選を果たします。勸業資金の産みの親である良一郎は品川内務大臣に、大日本信用組合論を説き報徳に依る国家統治構想も打ち出しました。

しかしながら明治29年(1896)山崎千三郎町長の没後の掛川町政は全く機能せず、大正12年(1923)までの27年間に18人の町長が入替り、郡役所の吏員が代行するまでに落ちぶれます。その上明治33年海望亭からの出火で掛川町は200戸を焼く大火で痛手を被ります。

こうした中で岡田良一郎は掛川町の繁昌策を考え商工業の発展策を考えて行きます。明治35年には「小笠物産陳列館」を建て、農産業の発展を図って行きます。約3000点の諸陳列をして進歩発展の拠点を作り上げて行きます。明治36年(1903)「報徳社大講堂」を1万余円の予算を立て完成させます。1階は和風2階は洋風で吹き抜けの観覧席を作り、報徳新興の普及シンボルタワーを完成させ、講演講話と政治活動の殿堂として活用して、郡内諸活動の拠点として大いに利用発展をして行きます。明治44年(1907)には社名も「大日本報徳社」と改めます。

明治40年には掛川公園に「掛川戦勝観音」を設立、4月8日開眼式を行なった。日清日露戦争の戦没者1,059名の霊魂を祀る為に、報徳婦人会を中心に広く募金を募り1万円余を集め、東京美術学校竹内久一教授に政策を依頼して完成した。岡田良一郎は大正6年(1917)77才で亡くなり勲六等瑞宝章を戴いた。